

# Japan-Zambia

2024/7/27～8/5

JICA教師海外研修

青森明の星中学・高等学校 堀 奏音



## いざ、ザンビア！

羽田空港に集合し、これからいよいよザンビアに向かう。

ほとんどの人が初めてのアフリカ。たくさんの期待・ワクワクと、ほんの少しだけの不安を抱えて、飛行機に乗り込んだ。

今回の研修は、北海道チームとの合同という初めての試み。これを機に、多くの人とのツナガリをつくることも楽しみの一つ。

まずは、乗り継ぎ地点のドバイに行く。

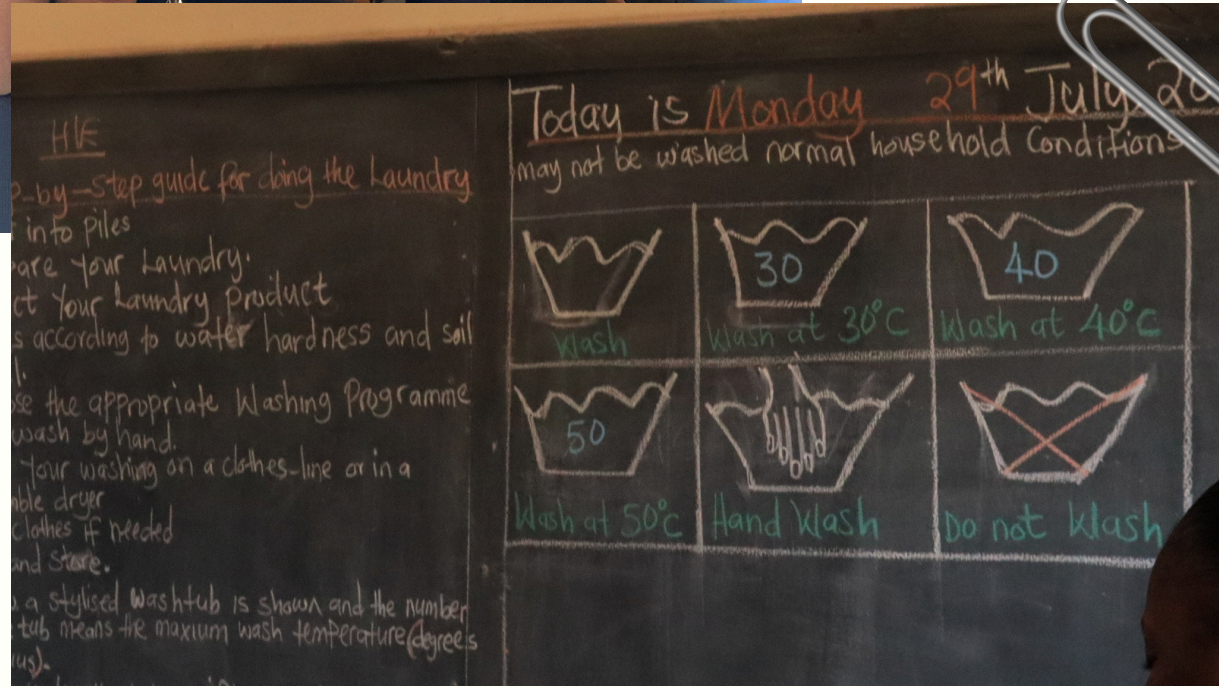


## ドバイに到着

とても広いドバイ国際空港。飛行機から降りると、空港の建物までバスで20分移動。少し時間にゆとりがあったので、空港で買い物してみた。

さすがはドバイ。あちらこちらから高級な香水の香りがする。物価が高いということもあってか、あらゆるものが高価に感じた。





# Day1 July 29th

## チャイナマ特別支援初等学校

村上恵里佳隊員が活動している学校。ザンビアの特別支援教育の様子を見せていただいた。聴覚障害を持っている先生が、聴覚障害の子ども達と笑顔で落ち着いた授業をしている様子が印象的だった。

子ども達はみんな素直でキラキラしていて、自ら「写真を撮って」とお願いしてきたり、追いかけてきて手を振ったりして、初日にしてザンビアのイメージをひっくり返された気がした。

現地の先生へのインタビューの中で、「先生になる気はなかったけど、今は子ども達と一緒に過ごすことができるととても幸せ！」と語っていた。

通常級の子供達は、歌とリズムに合わせて数の学習に大盛り上がり！日本の小学生も歌とリズムは大好きだが、外まで響く学びの声には圧倒されてしまった。遠い地である日本の学校と通じ合うものがあると感じた。



## カニヤマレベル1総合病院

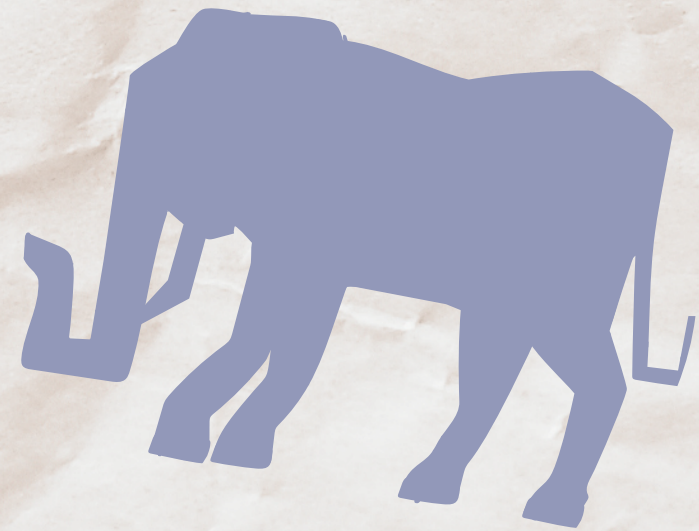
伊藤亨隊員が活動している病院。レベル1～3まで病院がある中で、まだ発展が見込まれている病院には午後3時過ぎにも関わらず数多くの人。「重傷でも痛みを感じるまでは病院には行かない」ということから金銭、医療、様々な要素を想像したが、それには国民性も関わっているということに驚いた。学校や都市部とは違うコンパウンド内の病院ともあって、初めて感じる緊張感を味わった。

2, 3年前から始まったという国民保険制度、日本で言う乳幼児定期検診、伊藤隊員も従事している医療機器による新しい診療、医療の発展を知ることができた。ザンビアでの医師を目指す人の増加と、日本の物的支援、ソフトウェア面とハードウェア面、どちらも相まつの発展が重要であると感じた。

山形県天童市立津山小学校 佐藤 光顕



DAY2 July 30th



## 丸森町プロジェクトサイト

農業研修生として丸森町に訪れたザンビアの人々が、「持続可能な生活」「自分の力で利益を生み出す」ことを目標に、丸森町で学んだ知識を積極的に生かし、生活する姿が見られた。ヤギの糞をオーガニック肥料として活用したり、手作りのソーラードライを使って農産物を保存できるようにしたり、トライアンドエラーを繰り返しながら「自分たちの暮らしをより良くしていこう」と常に挑戦し続ける姿勢に感銘を受けた。「この仕事が好きである」と話すプロジェクトリーダーの笑顔も印象に残っている。

エネルギーに満ち溢れる歓迎の歌とダンス、初めて作るザンビアの主食「シマ」、鶏の解体ショー！？現地の人々との交流...どれも最高の思い出である。昼食後、東北各県のお菓子をプレゼントした。一番好評だったお菓子は青森県のドライアップル・・・！



## チランガ郡農業事務所

農作物を育てるために使用する肥料や農薬はコストがかかる。そこで「酢と唐辛子」「発酵した発米のとき汁」などを使ったオーガニック農薬、有機農業のシステムを生かし、農業を発展させていこうとする活動を推進していた。現地の隊員さんは、ザンビアの農業界を活性化していくために、「今あるもので、何ができるのか」その答えを日々模索している。ザンビアの子どもから大人まで幅広い世代を巻き込みながら、農業界をもっともっと盛り上げていこうとする姿を見ることができた。



宮城県石巻市立桃生中学校

志賀 優香



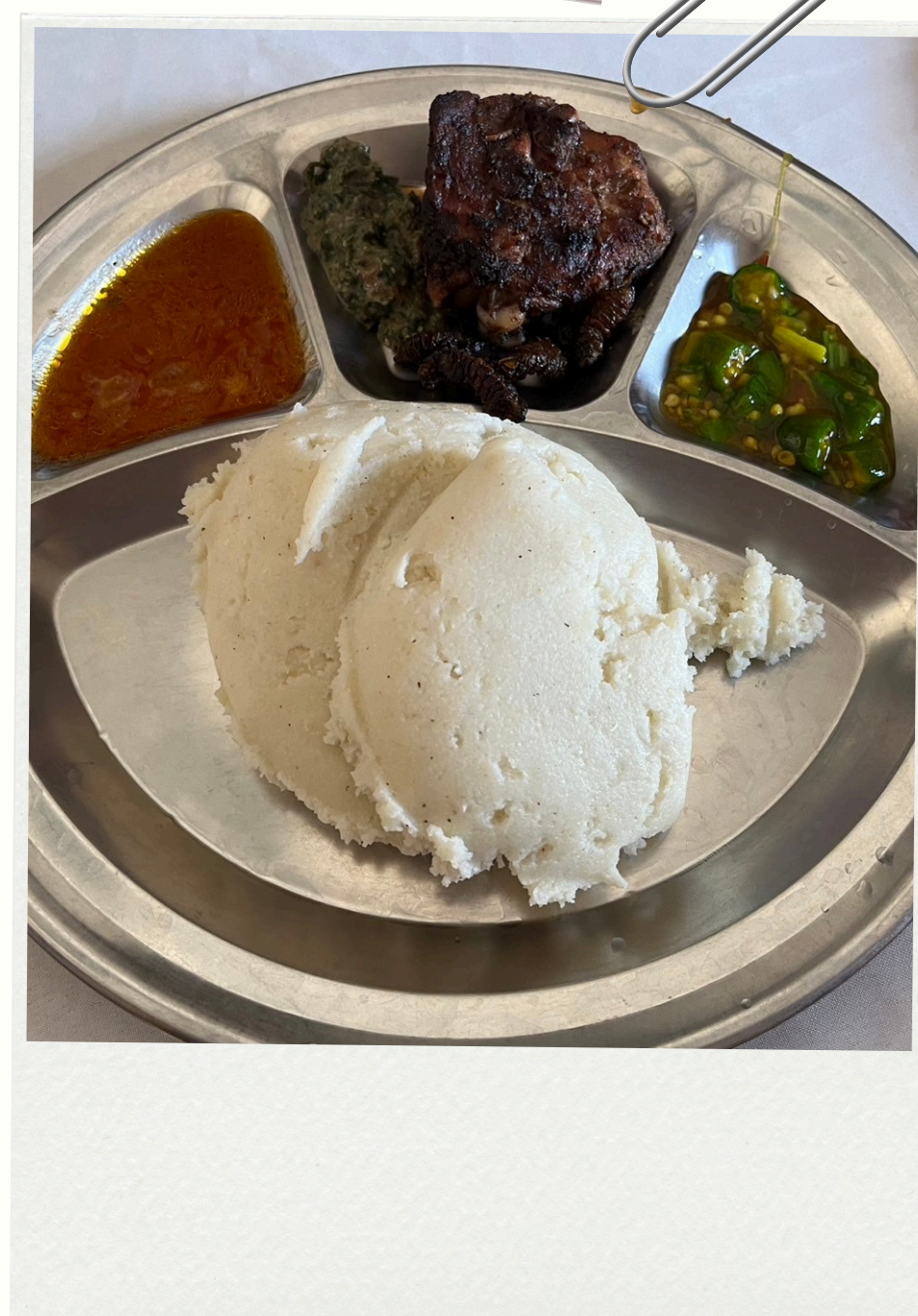


# DAY3 JULY 31ST (IN THE MORNING)

## DESTINY COMMUNITY SCHOOL

### WELLCOME MUSIC & DANCE

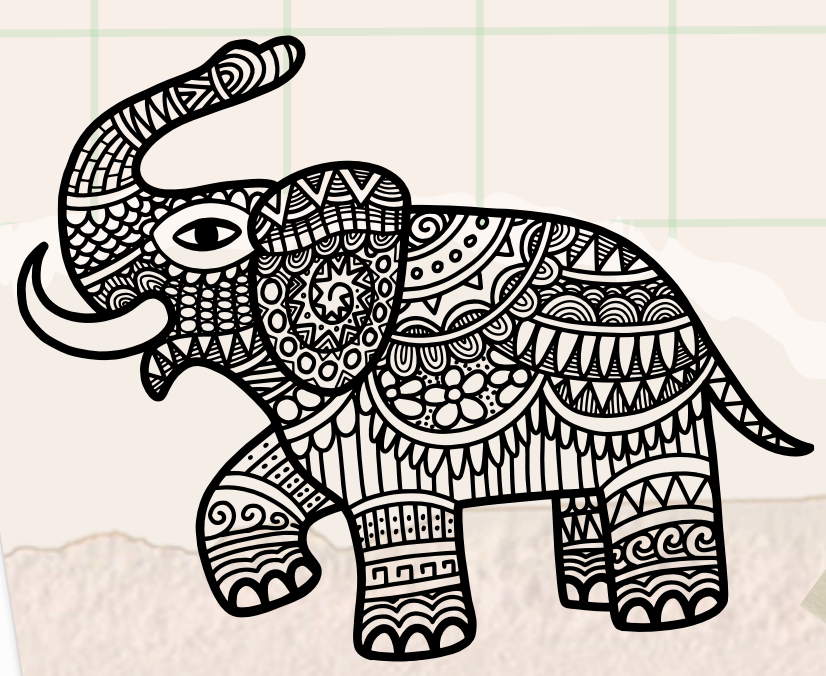
到着するとザンビアのパワフルな音楽と熱烈なダンスで生徒たちが私たちを歓迎してくれた。一緒に踊ることでお互いの絆を確かめ、深め合うのがザンビアカルチャー。私たちも生徒たちに混ざり、見よう見まねでリズムに乗せて身体を動かす。すると、自然と笑顔が、ハイタッチが、一体感が生まれ、私たちは仲間だ！と思えた瞬間だった。お返しとして、仙台市の伝統舞踊すずめ踊りとひげじいさんの手遊びを紹介し、一緒に踊って歌って日本の文化も体験してもらった。



### SPECIAL LUNCH

ランチは先生たちが腕を振るって作ってくれた特別メニューを頂いた。主食のシマ、魚のフライと付け合わせのオクラ、ワーム、トマトスープで大満足。シマは大きな塊を素手でちぎり一口サイズに丸めて、付け合わせの野菜やスープに付けながら食べる。最後までキレイな手で食べ切れれば一人前のザンビア人として認めもらえる。またシマを食べたい。

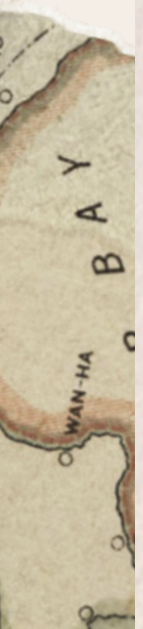




Day 3 July 31st  
 (in the afternoon)  
 Destiny Community school

## 体を動かしての交流！

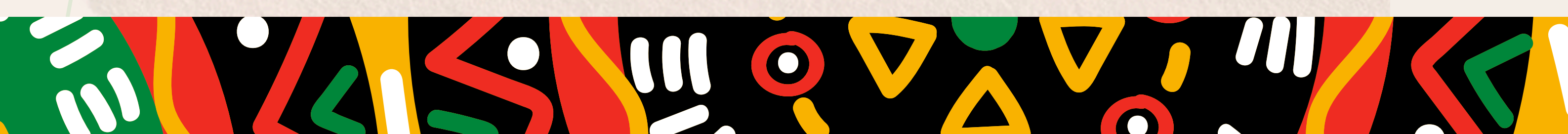
私たちは、高学年の生徒たちと交流した。日本の文化を体験してもらおう！ということで選んだのはボール送り！ちょっと簡単かな、と思いつつも生徒たちは笑顔でやってくれた！



## 先生の自宅訪問！

学校で交流を終えた後は先生の自宅に伺った！家族で歓迎してもらい、サツマイモもいただいた！日本でも食べたことのある懐かしい味にとっても心が落ち着いた。

高橋 謙介  
 山形県立小国高等学校

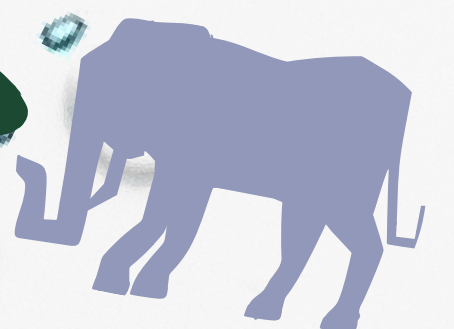
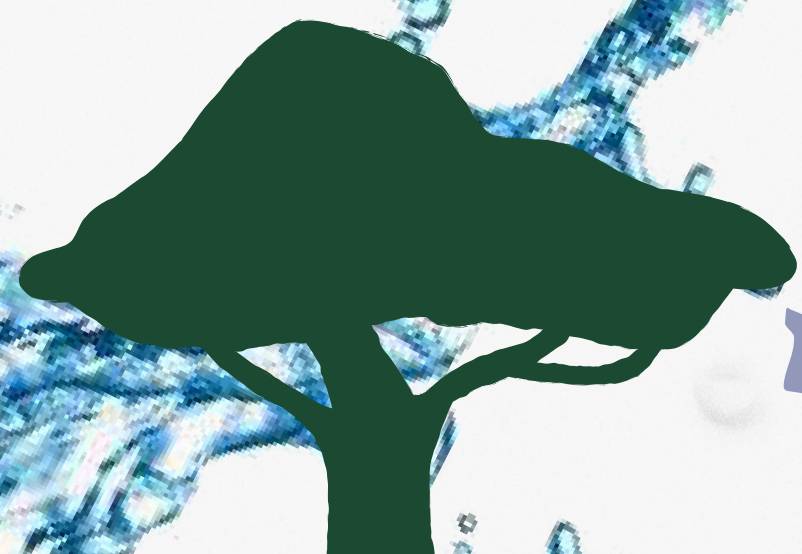


# Day4 August 1st

## 草の根WASHプロジェクト

草の根WASHプロジェクトを行っている事務所を訪れた。このプロジェクトを行っているのは、ジコランガというチャワマとカニヤマ地区の青少年たちが活動しているクラブである。ここでは、SDGsと関連させながら、健康と生活の質の向上に努めている。特に、きれいな水を使うことに力を入れている。きれいな水を使って自分をきれいにすることは自信に繋がるという言葉がとても印象的であった。また、自分自身の存在価値を高めるだけでなく、他からの信頼を得ることになるということにも共感した。身体の状態のみならず心の状態も重視した健康の捉え方に、ザンビアの人たちの温かさを感じた。

青森県三沢市立岡三沢小学校 赤坂 滯





# DAY5

## August 2nd



### エヴリンホン短期大学

教員養成課程で音楽を教える隊員村上明子さんを訪ね、大学1年生の演奏を聴かせてもらったり、ザンビアにおける音楽教育の現状を伺った。

学校の先生になるための教員養成課程で英語と音楽の免許が取れるが、入試で音楽の実技試験があるわけではないので、ピアノを弾けない学生も多い。ザンビアでは音楽は身近だが、ピアノは珍しいようだ。



### 在ザンビア日本大使館表敬

竹内一之駐ザンビア日本国特命全権大使を表敬訪問し、ザンビア共和国での教師海外研修の成果を報告した。

竹内大使からは、生徒たちに今までとは違った視点を育むことにつながるので、それぞれの先生方が自校の生徒たちにザンビアで見たものを積極的に伝えて欲しいとご助言頂いた。



### ゴミ処分場視察

ゴミ処分場についたばかりの収集車にはお金になりやすいお宝があるかもしれないのもものすごい勢いで人々が乗り込む。想像以上の光景であった。

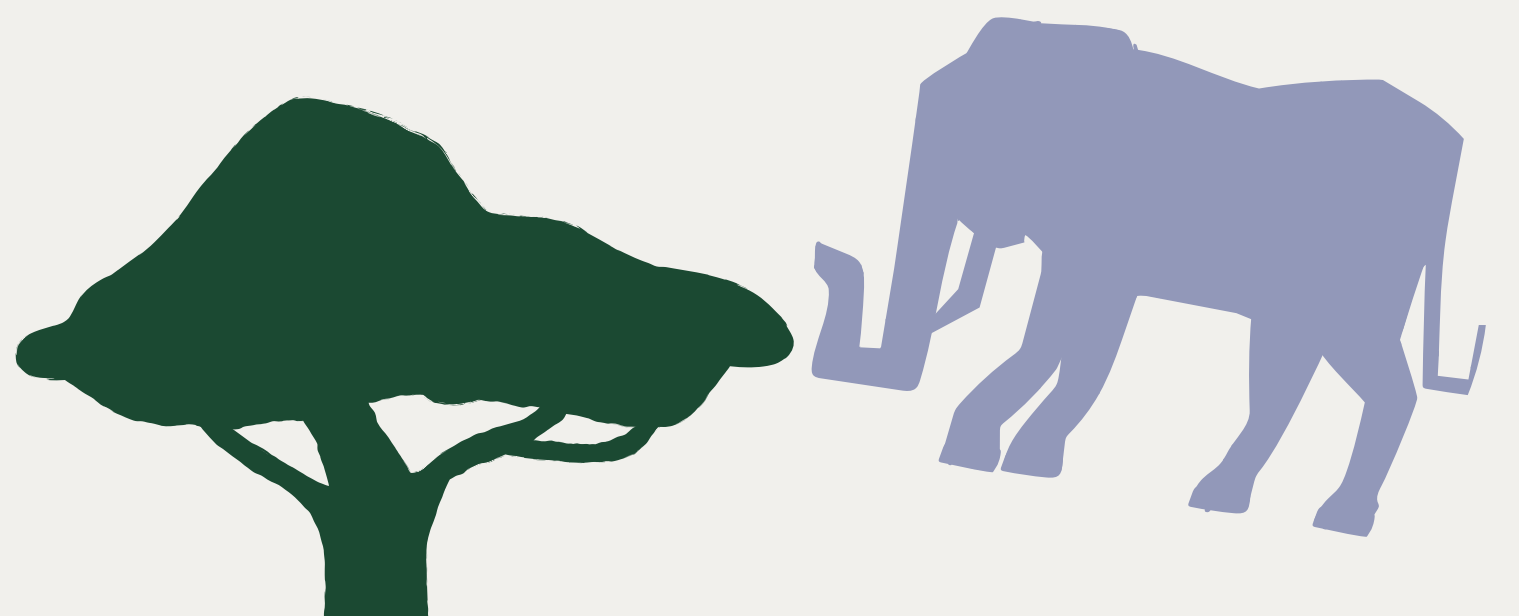
現在はゴミ処理のシステムは何もなく、収集したゴミを一カ所に集めているだけである。ゴミ処分施設が建設するのは、数十年後になる。資金とオペレーションする人材が圧倒的に不足している。システム構築と同時に教育面での知識の伝達が必要となってくる。



### アグリカルチャーショー

各地の農家組合やグループが、自分たちの日々の農業活動の成果を展示し、その成果を競う行事。農作物の展示・販売だけでなく、伝統的な踊りやスポーツなども行われた。

秋田県立五城目高等学校 鈴木 綾子



Day 6 August 3rd

# ルサカ国立公園 (象の孤児院)

野生の象を保護するために設立された象の孤児院。象の成長段階に応じた支援を展開し、見守る施設。国立公園内では、野生のシカやサイ、キリンに会うことができた。研修最終日とあってさみしい気持ちもあったが、アフリカらしい景色を体感することができた。



## 帰国... ?

ルサカ国立公園をあとにし、ザンビアとのお別れの時間がせまってきた。ルサカ空港⇒ドバイ⇒羽田と、17時間をかけ帰国の準備をする。

ルサカを夜9時に出国し、朝の5時にドバイへ。そのまま羽田行きへ乗り換え...のはずが。

旅にトラブルはつきものであり、当初予定がなかったドバイに1日滞在することに。疲れも溜まっていたが、延長された1日も充実した時間を過ごす事ができた。



## 終わりに

自分の肌でザンビアの空気に触れた。  
自分の目でザンビアを見た。  
鼻で匂いを知り、耳で音を感じた。  
文字通り五感すべてで体験してきた。  
この貴重な経験と共に研修を受けた仲間との出会いは、私達の宝物となった。  
この研修で得たすべてを、これから教え子たちに還元していきたい。

